



ピックアップ県立図書館 ～おだけサーチ～

ご自分で簡単に貸出手続きができる「自動貸出機」や、予約資料の受取りができる「予約棚」など、当館では、本に貼ってあるICタグを活用した情報端末で、さまざまなサービスを提供しています。「おだけサーチ」もその1つで、本を置くだけで、その本に関連する本を自動的に紹介してくれます。例えば、同じ作者が書いた他の作品を読みたいときや、ある研究テーマについて他にどんな本があるか知りたいときなどに、「同じ著者」や「同じ分類」「同じ件名」の本を、簡単に探すことができます。「おだけサーチ」は蔵書検索と連動しているので、探した本の所在場所や在庫状況も簡単にわかり、

とても便利です。まだ使ったことのない方は、ぜひ利用してみてください。



実習・インターンシップ

9月1日から12日の日・月曜日を除いた10日間、司書課程で学ぶ大学生2名が当館で実習を行いました。

実習生は、最初に概略説明を受けた後、まず貸出・返却等のカウンター業務、配架作業・書架整理・利用者案内などの直接サービスを体験し、資料選択・受入、データベース管理・活用といった間接サービスも学びました。さらに、広報活動についての説明の後、館内で行われる各種行事や展示等の企画についても学び、修理や開館・閉館準備、返却ポストの処理といった利用者からは見えない作業にも携わり、図書館業務全般を実際的に学びました。実習生は、図書館では想像以上に様々な業務が行われているということを実感したようです。図書館にとっても得ることの多い、有意義な実習であったと言えます。



Information

イベント案内

- 「おんがくかいぶらりⅣ」 12月20日(日)
- 「山梨芸術文化協会新春朗読会2015」 1月17日(日)
- 「かいぶらり寄席(仮)」 3月 6日(日)

今年も残り1ヶ月師走になりました。ラグビー世界大会は、今年もニュージーランドが優勝し幕を閉じましたが、日本の勝利に興奮した方も多かったのではないのでしょうか。県立図書館は、11月11日開館3周年記念行事を行いました。開館以来、多くの皆様にご利用いただき、感謝申し上げます。新しい年も皆様のご利用をお待ちしています。
(企画振興担当 高橋恵美子)

編集後記

阿刀田 高館長よりご挨拶

冬の日こそ楽しい

20才のときに肺結核の診断を受け、1年半ほどサナトリウムに入って治療を受けた。よい薬が出まわっていたし、重症ではなかったから、どこかが苦しいということはない。でも安静が大切で、ベッドに寝転がっていると「はい、上等」と看護婦さんにほめられる。

とはいえ若い身だから早く退院したくてたまらない。無聊を慰めてくれたのは、もっぱら読書。朝から晩まで読みふけり、これがどれほどの喜びであったか、しみじみと本には感謝している。冬のころ、みぞれの朝、しばれる夜には「外で働いている人は大変だなあ」と、ひたすら温かい部屋で本を読んでいるのは極楽、極楽、これもうれしい思い出である。

大げさかもしれないが、人生には必ず苦しいときがある。孤独に見舞われるときがある。そのときどう過ごすか、どう生きるか、これが肝要だ。私には読書がこのうえなく役立ってくれたが、この体験はぜひとも多くの人に勧めたい。まったくの話、人生に点在する逆境のときに「読書はいいなあ」と叫びたい。冬の日々の寒さも、たとえ独りきりでも財布の中が乏しくても(暖房だけはほしいけれど)ヌクヌクと想像の世界へ旅をしたい。



事業報告

音楽イベント

おんがく かいぶらり



県立図書館では、今年度から図書館主催の音楽イベント「おんがくかいぶらり」を開催しています。年間5回の開催予定で、ジャズ、クラシック、邦楽と本格的な演奏を楽しんでいただけるイベントです。

第1回は「デキシーランドジャズ」、第2回は「ハープの響き」、第3回は「ヴァイオリンとチェロ」を開催し、どの回にも大勢の方に来ていただいています。12月20日の第4回、2月7日の第5回も楽しんでいただきたいと思います。

生涯読書

生涯読書のこれからを考える

6月21日(日)にNPO法人本の学校との共催で「生涯読書のこれからを考える～書き手、作り手、送り手、そして読者の視点から～」が開催されました。当日は、午前11時から椎名誠氏の講演会、午後1時40分からパネルディスカッション、午後3時30分から分科会が開かれました。椎名氏の講演会は「本の夢 本の力」と題し、本を読むことの大切さ、知識欲、本から生まれる行動力などをユニークな語り口で語っていただきました。パネルディスカッションでは、文化通信社の星野渉氏を司会に、須藤玲子氏、宮川大輔氏、小菅一徳氏、齊藤秀副館長がパネリストとなり、「やまなし読書活動促進事業」について熱い想いが語られました。分科会は、第1分科会が河出書房新社の小野寺優氏を講師に「本と読者と出版社、そして『日本文学全集』のはなし」、第2分科会が卓示書店の渡辺小百合氏と朗月堂の藤井郁氏を講師にワークショップ「好きな本のPOPを作ろう」、第3分科会が文屋の木下豊氏を講師に『100年後も読み継がれる一冊』を地方で作る」をテーマに行われました。参加者全員が、改めて本・読書について、さまざまな立場から考えられるイベントとなりました。



展示

展示『戦後70年』

1945(昭和20)年8月15日の終戦から70年を迎えるのを機に、当館2階の「情報サテライト1」において、資料の紹介展示を行いました。期間は平成27年6月24日(水)～8月30日(日)で、「戦後70年～太平洋戦争と復興、現代へのあゆみ～」をテーマに、太平洋戦争に関する資料と戦後の政治や経済・社会についての資料、また、戦争体験記や記録などにより、戦後70年の歴史を振り返る内容でした。展示資料の内訳は、太平洋戦争を知る(56冊)、戦後の歴史(27冊)、戦後の政治と外交(27冊)、戦後の経済と社会(20冊)、戦争体験記・記録(58冊)です。



朗読会

山根基世氏朗読講習会
[4月24日]

NHKの元アナウンサーで、現在は、地域作りと言葉教育を組み合わせた独自の活動を続けている山根基世氏をお招きした朗読講習会を多目的ホールで開催しました。始めに、山根氏の「ごんぎつね」の朗読をお聞きし、その後、「ごんぎつね」を通して効果的な朗読法を学びました。具体的事例を挙げ、意味が伝わるように文章を一息で読むこと、声の高さ、速さなど、朗読をするときに意識すべき基本や心構えを分かりやすく教えていただきました。

資料展示
報告

資料展示報告

- 1 「こどもにすすめたい本 2015」 【4月23日～5月11日】
- 2 「健康に生きるために～2025年問題を考える」 【4月29日～6月21日】
- 3 「やまなし近代人物再発見」 【5月22日～6月28日】
- 4 「山梨と戦争～終戦70年～」 【7月2日～8月30日】
- 5 「新幹線とリニア ～これまで→これから～」 【9月2日～11月15日】
- 6 「俳人飯田蛇笏と雑誌「雲母」」 【9月4日～10月29日】
- 7 「和のこころを受け継ぐ」 【10月1日～12月15日】



やまなし読書人

竹田 泉氏 (山梨県立図書館協力会会長)

私たち山梨県立図書館協力会は、案内・書架整理、代読サービス、環境整備、修理・ブックコート、書庫開放補助、外国語読み聞かせなどのボランティア活動を通して利用者の皆様により良い環境を提供できるよう協力しています。

さて、近年情報技術の進化、電子機器の普及に伴い活字文化の衰退が危惧されています。電子媒体を利用することにより、情報入手は迅速かつ労力も少なくなりますが、能動的に活字に触れることによって得られた情報こそが記憶、知識となり、役立つものと考えます。

活字に触れるには「書に親しむ」ことが第一歩となり、そのための拠点として図書館の存在が有効なものとなります。

県立図書館をはじめとして、県内市町村にもそれぞれ特色を持った図書館があります。より多くの皆様に足を運び、書に親しんでいただけますよう切望します。

そこには素晴らしい出会いを求めて、書物たちが待っているはずですよ。

私たちも県民共有の財産である県立図書館を快適に利用していただける一助となるべく、今後も活動を継続して参ります。